

原初 いけばな 宣言

「いけばな」は、自然の摂理と神々の働きとが織り成す生命の道である。
花をいけるとは、時代の気まぐれに身を任せることなく、
祖先が体得した自然への畏敬の中に自己を照らし出すことである。
そのために、傲慢な唯物的思想を戒め、型を放棄して己を誇示せんとする
「創造」の迷妄を退けるところから始めねばならない。

原初「いけばな」は懐古的感情こそを尊ぶ。

過去を否定する者に、生きた世界は決して立ち上がらない。

原初「いけばな」は形式の固定を恐れない。

形式とは一過的な思い付きではなく、長き歳月をかけて継承された生命の通路である。

原初「いけばな」は道義的観念を踏まえる。

いけばなは人の欲望を誇示する芸術ではなく、神仏への祈りと共生の精神から生まれたものである。

原初「いけばな」は植物の本性を尊重する。

生気なき抽象と標本的扱いを拒み、素材そのものが持つ靈性を顕すことを目指す。

原初「いけばな」は花器を選び抜く。

無制限な自由を掲げて形を弄ぶのではなく、器と花との相生を重んじる。

原初「いけばな」は発展を名目とした自由化を拒む。

形式なき進歩は無秩序であり、現代の生活に結びつけるべきは芸術ではなく自然への畏敬である。

原初「いけばな」は時代に流される遊戯ではない。

盲従すべきは時流ではなく、自然と祖霊に対する深き敬意である。